



金沢市

金沢市は、北陸の中枢都市として、現代的なまちなみの中に、豊かな自然や、藩政時代からの歴史的まちなみが色濃く残る「歴史都市」です。金沢市では、これら歴史資産を後世に伝えると同時に、今まで培ってきた「伝統文化」と「新しい文化」が調和した、風格と活力ある世界都市を目指しています。

金沢市は、北陸の中枢都市として、現代的なまちなみの中に、豊かな自然や、藩政時代からの歴史的まちなみが色濃く残る「歴史都市」です。金沢市では、これら歴史資産を後世に伝えると同時に、今まで培ってきた「伝統文化」と「新しい文化」が調和した、風格と活力ある世界都市を目指しています。

金沢市は、北陸の中枢都市として、現代的なまちなみの中に、豊かな自然や、藩政時代からの歴史的まちなみが色濃く残る「歴史都市」です。金沢市では、これら歴史資産を後世に伝えると同時に、今まで培ってきた「伝統文化」と「新しい文化」が調和した、風格と活力ある世界都市を目指しています。

金沢市は、北陸の中枢都市として、現代的なまちなみの中に、豊かな自然や、藩政時代からの歴史的まちなみが色濃く残る「歴史都市」です。金沢市では、これら歴史資産を後世に伝えると同時に、今まで培ってきた「伝統文化」と「新しい文化」が調和した、風格と活力ある世界都市を目指しています。

金沢市は、北陸の中枢都市として、現代的なまちなみの中に、豊かな自然や、藩政時代からの歴史的まちなみが色濃く残る「歴史都市」です。金沢市では、これら歴史資産を後世に伝えると同時に、今まで培ってきた「伝統文化」と「新しい文化」が調和した、風格と活力ある世界都市を目指しています。

那覇市交流連携都市

金沢市の概要
人口：457,570人
世帯：189,816世帯
面積：467.77平方km
(平成21年11月1日現在)

金沢市の歴史
「城下町金沢」の誕生
都市としての金沢は1546年に守護の富樫政親を滅ぼした加賀の一向宗徒が金沢御堂と呼ばれる寺院を建立したことから始まります。御堂の中心には寺内町ができ、金沢のまちへと発展しました。

金沢の歴史
「城下町金沢」の誕生
都市としての金沢は1546年に守護の富樫政親を滅ぼした加賀の一向宗徒が金沢御堂と呼ばれる寺院を建立したことから始まります。御堂の中心には寺内町ができ、金沢のまちへと発展しました。

金沢の伝統工芸
加賀藩では手厚い保護育成の下で、美術・工芸の技術が育まれてきました。数多くの工芸品が受け継がれており、加賀友禅・加賀縮・九谷焼・金沢漆器・金沢仏壇・金沢箔は国指定の伝統的工芸品に指定されています。また、2009年6月には「ユネスコ」創造都市ネットワークのクラブ

金沢の食文化
金沢は、「食」においても魅力的です。代表的なものとしては、加能ガニ(ずわいガニ)や甘エビなどの日本海の魚介類や加賀野菜などがあげられます。金沢の郷土料理である加賀料理は、豊富な旬の素材を用い、九谷焼や金沢漆器などの豪華な器に盛りつけられているのが特徴です。代表的な加

金沢自慢 魅了するまち 兼六園
百万石前田家の庭園として造られた特別名勝・兼六園は、水戸の偕楽園・岡山の後楽園とともに、日本三名園の一つに挙げられます。

金沢21世紀美術館
金沢市の中心部に位置し、まに開かれた公園のような美術館として、国の内外からも注目を集めています。建物にはガラスの円形が特徴的で開放感溢れた造りになっており、内部は魅力的

那覇市は、昨年、静岡市と金沢市の二市と「交流連携等に関する協定」を締結し、市民の交流の促進に関することや観光振興の推進に向けた取り組みを行うことを確認しました。その取り組みの一環として、市民のみなさまに静岡市と金沢市を紹介します。

交流連携とは？
那覇市は、昨年7月の富士山静岡空港開港に伴う那覇・静岡便の就航と以前から就航のあった那覇・小松便による更なる交流の促進を目的に交流連携等に関する協定を締結しました。また、静岡市と金沢市間でも協定を締結しているため、協定によるトライアングルが完成しています。

三市で連携する事項は下記のとおりです。
(1) 広報等の相互PR活動の推進に関すること。
(2) 市民の交流の促進に関すること。
(3) 観光の振興等に向けた施策の推進に関すること。
(4) 地域資源の相互の活用等に関すること。など
三市における緊密な交流連携体制のもと、三市の一層の発展を目指します。

金沢の伝統芸能
フット分野で世界初の認定もいただきました。

静岡のイベント
静岡まつり(4月)
駿府のまちが桜色に染まると、祭りは最高潮を迎えます。大御所家康公の花見行列を再現した豪華絢爛な静岡まつり。静岡の春は桜と踊りで幕を開けます。

清水みなと祭り(7月)
「かつばれかつばれ」のリズムに溢れる清水みなと祭り。港町清水が誇る大迫力の総踊りや清水名物・次郎長道中など見所満載。威勢のよい担ぎ声とともに、勇壮な神輿が清水の街を練り歩きます。

静岡の自然 日本平
標高307メートルの丘陵。ここから眺める富士山はまさに日本一。国の名勝地や「観光地百選」にも選ばれています。

静岡市の概要
人口：727,311人
世帯：296,347世帯
面積：1,411.82平方km
(平成21年11月1日現在)

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。



静岡市

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。

静岡市のお茶の歴史
静岡市はお茶の歴史が古く、良質なお茶を多く生産する日本有数の茶所です。静岡市の二大ブランド茶といえば、静岡本山茶と清水のお茶。静岡市を縦断する安倍川とその支流である薬科川の流域で作られる「静岡本山茶」は、平野部のお茶と比べて葉肉がやわらかく、鮮やかな緑が特徴です。口当たりがとてもしずく、透き通るようなさわやかな香りと滋味に満ちています。